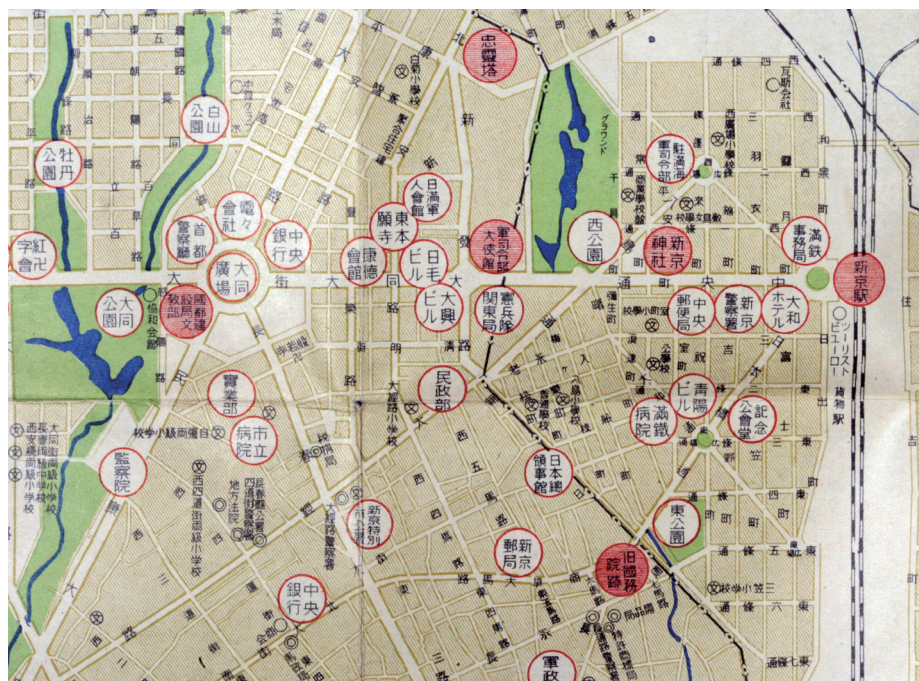


満州国（首都「新京」観光地図）



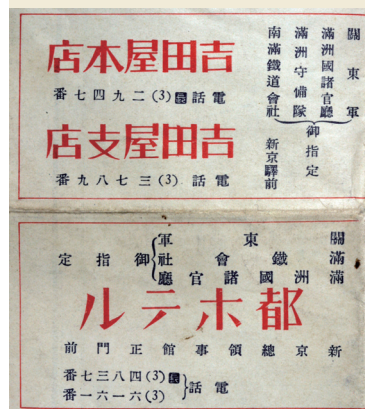
* 今井家文書35「新京観光地図」

解説

日本は、満州事変後の1932（昭和7）年、清朝最後の皇帝・宣統帝溥儀を執政として、中国東北部に「満州国」を建国しました。そこでは「五族協和」がうたわれましたが、実質的には日本の傀儡政権で、1945（昭和20）年まで日本はこの地を支配しました。日本の満州での行動は、アメリカをはじめ各国の反発をまねき、満州国は国際的には承認されませんでした。

首都は長春（現在、吉林省の省都）に置かれ、「新京」と呼ばれました。ここに、欧米にならった整然とした都市が急ピッチで建設されました。

写真左は1937（昭和12）年ごろの新京観光地図で、駅前に広がる新京市街がカラフルに描かれています。関東軍司令部のほか、満州支配の中核の建物の名前が見えます。画面下方の「旧国務院跡」は日満議定書調印の舞台になった場所です。裏面は観光案内になっており、新京の観光スポットの説明や観光のモデルコースが記載され、「新京は今、世界中で最もスピーディーな変化に富んだ大都市への形態を造りつつある」と建設途中の首都を説明しています。また、下の写真のホテルの広告には「関東軍御指定」などの文字が見えます。



* 当館にはこのほか、満州に関する資料として、戦意高揚のため満州事変の戦闘の様子を描いた「満州事変大画譜『日の出』昭和9年4月号附録」（佐倉谷家文書58, 59）や「満鉄の歌（楽譜）」（今井家文書8）などがあります。